

## 大原生涯学習センター i - y o u t h における若者支援事業の進捗状況について

大原生涯学習センター i - y o u t h における「NPO 法人 Learning for All（以下「LFA」という。）」との若者支援事業について、進捗状況を報告する。なお、困難を抱える子どもへの支援として、有効と判断できる成果が報告されていることから、LFAと締結している「若者支援に関する連携協定」を継続し、令和7年度についてもLFAに当該事業を委託する。

## 1 事業概要

（1）令和6年度の事業内容（毎週 水曜日・金曜日）※前年度から変更なし

①非登録制：16時から17時30分

まなぼーと大原1階の i - y o u t h に来ている不特定多数の子どもたちに対してLFAスタッフが関わり、遊びや勉強を通じて、子どもたちの困りごとを拾い上げる。

②登録制：18時から20時

困り事を抱えている子どもたちを対象とした登録制の個別支援として、困りごとに対する相談支援や子どもたちがやってみたいことを実現するプロジェクト学習を実施する。

③フードパントリー

上記①②の事業区分に関わらず、必要な子どもたちに自宅で簡単に調理することができる食事を配布する。

（2）活動実績（各人数は延べ数）

月	実施日数	参加者数	フードパントリー 配食数	LFA スタッフ数
4月	8日	非登録：501名 登録：25名	46食	44名
5月	10日	非登録：332名 登録：35名	48食	58名
6月	8日	非登録：245名 登録：25名	38食	55名
7月	9日	非登録：293名 登録：18名	24食	58名
8月	6日	非登録：533名 登録：17名	79食	47名
9月	8日	非登録：487名 登録：20名	67食	47名
10月	9日	非登録：596名 登録：24名	58食	64名
11月	9日	非登録：538名 登録：22名	59食	69名
12月	8日	非登録：411名 登録：14名	59食	60名
期間合計	75日	非登録：3,936名 登録：200名	478食	502名
前年比	100%	98.9% 71.6%	104.1%	146.3%

※登録制に関しては、登録者の参加者が受験準備や環境の変化により減少した。

## 2 具体的支援内容（主な成果）

### （1）非登録制（i-youthでの見守り活動）

これまでの見守りや会話を通じての関係性構築だけでなく、今年度は「子どもの来訪頻度を上げる施策」として、茶の湯・演劇・コピックマーカー（プロのデザイナーも使用するペン）・電子ドラム等の体験活動を実施した。

利用者の傾向として「フラッとくる」と遊びにくることが多いため、利用頻度を高めるため、「行けば楽しいことがある」という状況をつくることのできるような環境整備を心がけている。

### （2）登録制（個別のプロジェクト学習）

現在4名（昨年度は5名）が登録しており、うち1名が高校受験に向けた通塾のため休会中、他3名は安定して出席しているおり、内2名が大学受験をすることから、経済面・学習面の相談や、精神面のサポートを行った（2名とも進路決定）。

昨年度より、クラブ活動のように共同で行う活動も継続しており、「動画作成・配信」「カードゲームやイベント開催」「バンド活動」「勉強・進路」「料理」といった活動を行っている。中でも、バンド活動については、社会教育指導員が企画したi-youthでの音楽イベントに参加して演奏するなど、積極的に活動している。

登録制の活動を通じて、定期的に希死念慮や自傷行為があった子どもは、状況が緩和傾向にある。別の子どもは、「支える側として関わりたい」という意思を発するなど、事業を継続する中で、着実に自己肯定感が向上し、気持ちが前向きに変化している様子が見えてくる。

### （3）関係機関との連携

大原生涯学習センターi-youthの利用者には、志村第一・二中学校の生徒が多いことから、継続して両校との情報交換を進めている。志村第二中学校では月1回の校内委員会に参加しており、何名か登録制支援につなげたいとの話は出ているが本人のニーズもあり実現には至っていない。志村第一中学校では、LFAが「学校における居場所推進事業」を週2回実施しており、登校はできているが教室にあまり入れない生徒にi-youthを紹介している（2名はi-youthを利用した）。

その他、子ども家庭総合支援センターとも関係性を構築しており、気になる子どもを発見した場合は、相談や通告を行っている（令和6年度 相談6件、通告1件※希死念慮）。

## 3 今後の課題

i-youth利用者から社会的自立にリスクを抱える子どもを発見し支援する事業であるが、現状は登録制の参加者が少ない。支援が必要な子どもを見逃さないよう、次年度は利用者と接触する機会を増やすことを目標に、以下の方向性で活動内容を調整していく。

### （1）非登録制における活動時間の延長や体験イベントの拡充

各種の体験活動を継続して開催するとともに、周知活動にも力を入れ、i-youth利用者の来訪頻度を上げていく。

### （2）フードパントリーの運用方法の見直し

コロナ禍を前提にレトルト食品の配布をしていたが、社会環境が変化している中でニーズも変化しているため、配布に限定することなく、飲食を伴うイベント形式での運用も検討し、食品を有効なコミュニケーションツールとして活用していく。